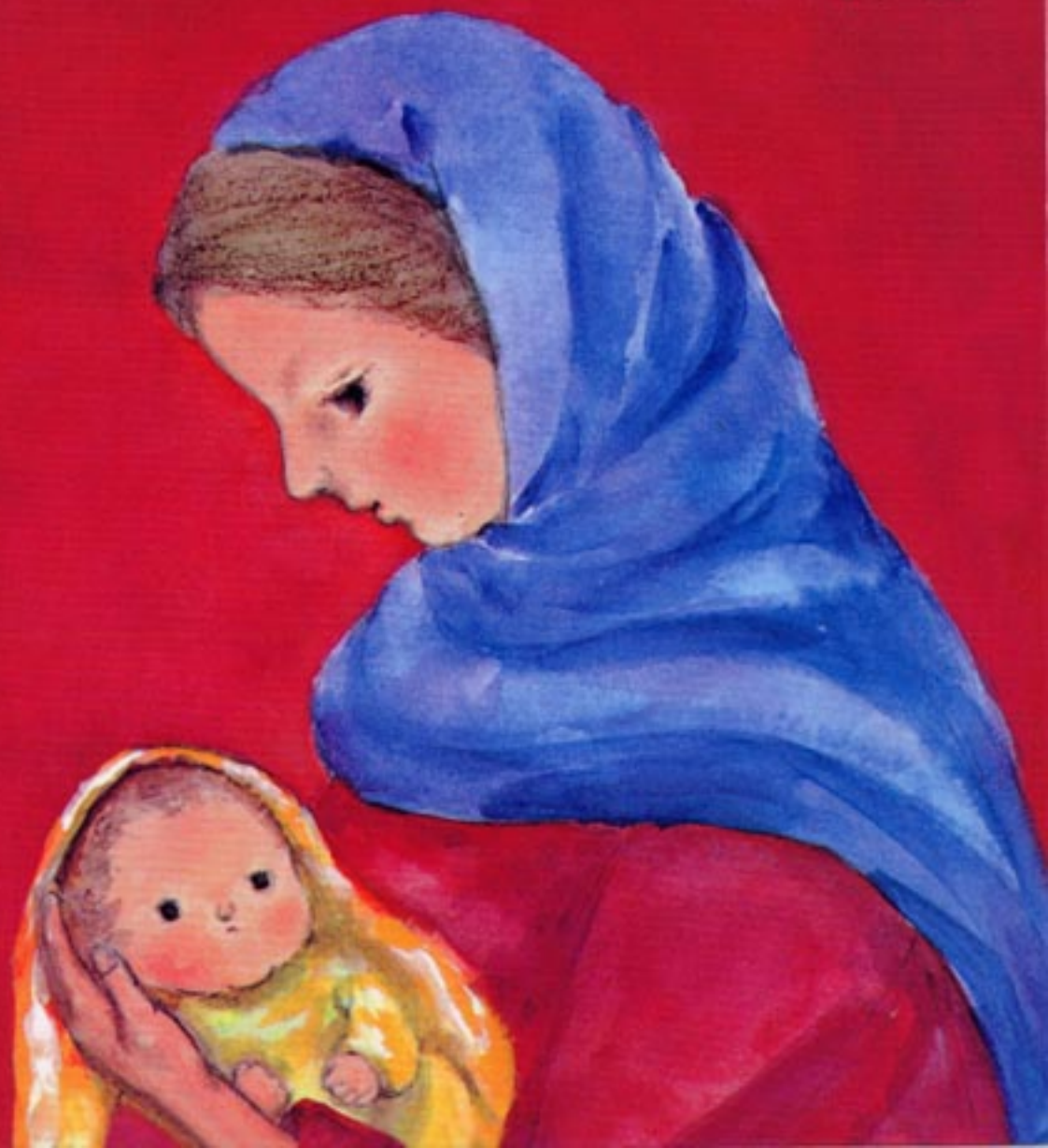
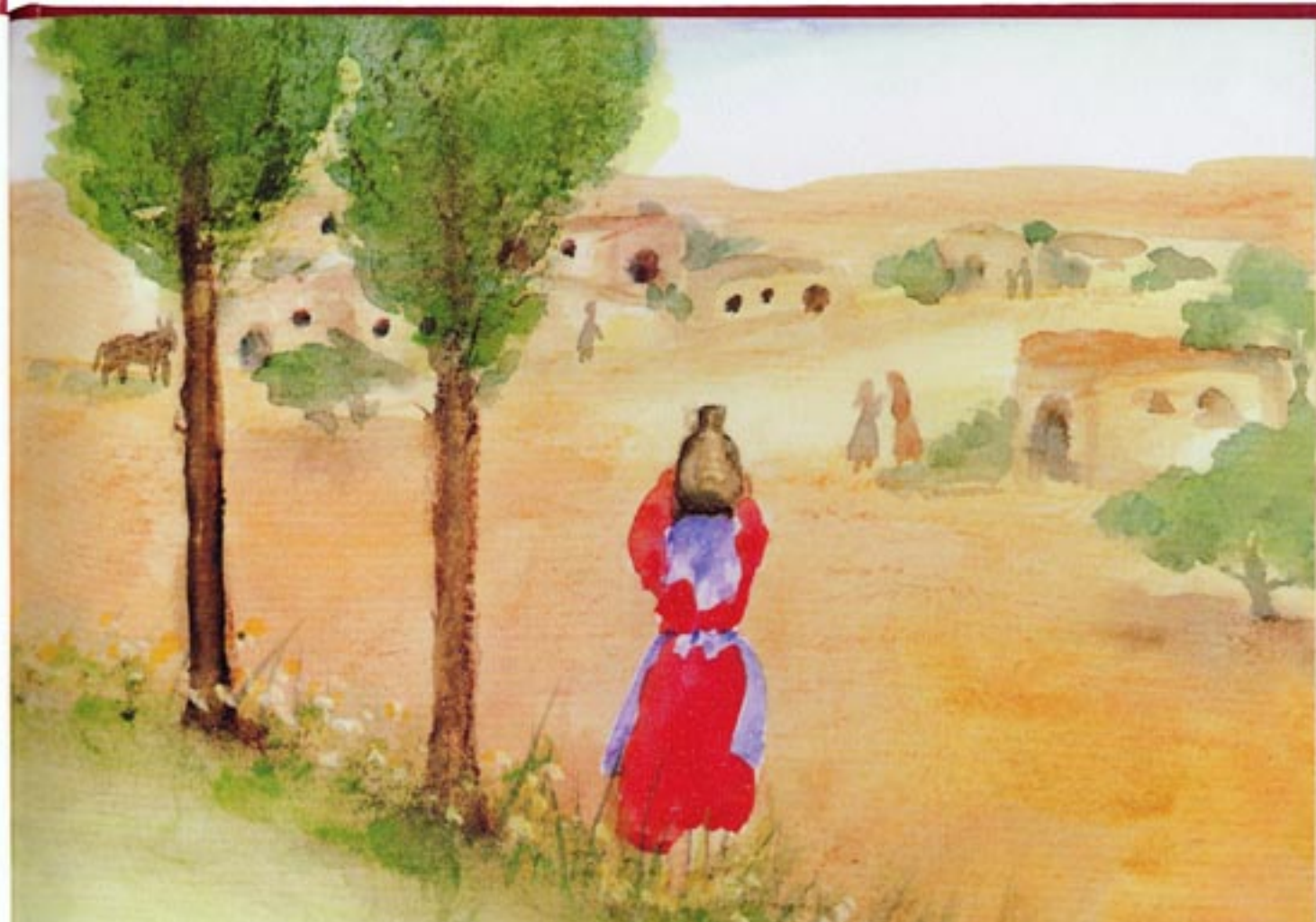


きりすとさまのおたんじょう

くりすます

え やの しげこ
ぶん わきた あきこ






きりすとさまのおたんじょう

くりすます

ちいさな、いなかの まち なざれ。

そこに、

まりあさまと よせふさまの うちが
ありました。



あるひ てんしが やってきて、
「かみさまからの うれしい おしらせ。
もうじき あかちゃんが うまれます。
おめでとう。だいに そだてて くださいね。
かみさまの みこですよ。」と いました。





そのころ、やくにんが くにじゅうを まわって
おうさまの めいれいをつたえました。
「みんな じぶんの うまれた まちへ 行って
やくしょに なまえをとどけなさい。」



さあ たいへん！ たくさんの ひとは
うまれた まちから とおく はなれて
くらしていたのです。

ひとびとは しゅっぱつし、
まりあさまと よせふさまも
ずっと みなみの まち

べつれへむへ

むかいました。



なんにちも かかって
ようやく ふたりが べつれへむに ついたとき、
やどやは もう どこも まんいん。
やっと みつけた ちいさな うまやに
ひとばん、ふたりは やすむことにしました。
そのよる、きりすとさまは おうまれになったのです。



ちかくの のはらでは ひつじかいたちが ねむっていました。
きゅうに そらが あかるくなって、
てんしの こえが きこえてきます。
「おききなさい、ひつじかいたち、かみさまからの
うれしい おしらせ。きょう べつれへむの うまやで
あかちゃんが うまれました。
かいばおけの なかに ねむっています。
これが、かみさまの みこ きりすとさま。」

